

Ⅱ 研究内容

1 道徳の教科化

「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）」には、道徳教育の重点目標を設定し、充実した指導を重ね、確固たる成果を上げている学校がある一方で、多くの課題もあると指摘されています。

また、子どもたちの心の危機などの課題や道徳の授業の実施実態に大きな課題があり、道徳教育の充実・強化を図るために道徳の教科化が進められました。

(1) これまでの道徳の課題と教科化がめざすもの

【量的課題】 「道徳の時間」の授業が適切に実施されていないという課題

- 歴史的経緯に影響され、いまだに道徳教育そのものを忌避しがちな風潮がある。
- 他教科等に比べて軽んじられ、他の教科等に振り替えられていることもあるのではないかな。

年間35単位時間
を確保するとい
う

量的確保

「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）」

→道徳の教科化

「特別の教科 道徳」（道徳科）として、教科に位置付ける。

- ① 目標を明確にする。
- ② 道徳教育の目標と道徳科の目標との関係を明確にする。
- ③ 道徳科の内容を発達段階に応じた体系的なものにする。
- ④ 多様で効果的な指導方法へと改善する。
- ⑤ 検定教科書を導入する。
- ⑥ 成長を促すための、評価を充実させる。

道徳の教科化により、教科用図書の使用と評価が実施され、他教科と同様に、年間指導計画に沿って、効果的に資質・能力を育成することができると考えられます。

道徳の教科化が量的課題の改善の方向性を示しているといえます。



【質的課題】 充実した「道徳の時間」の授業が実施されていないという課題

- 教員をはじめとする教育関係者にもその理念が十分に理解されておらず、効果的な指導方法も共有されていない。
- 地域間、学校間、教師間の差が大きく、道徳教育に関する理解や道徳の時間の指導方法にばらつきが大きい。
- 授業方法が、読み物の登場人物の心情を理解させるだけなどの型にはまったものになりがちである。
- 学年が上がるにつれて、道徳の時間に関する児童生徒の受け止めがよくない状況にある。

子どもたちが道徳的価値を理解し、これまで以上に深く考えてその自覚を深めるといふ

質的転換

「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）」

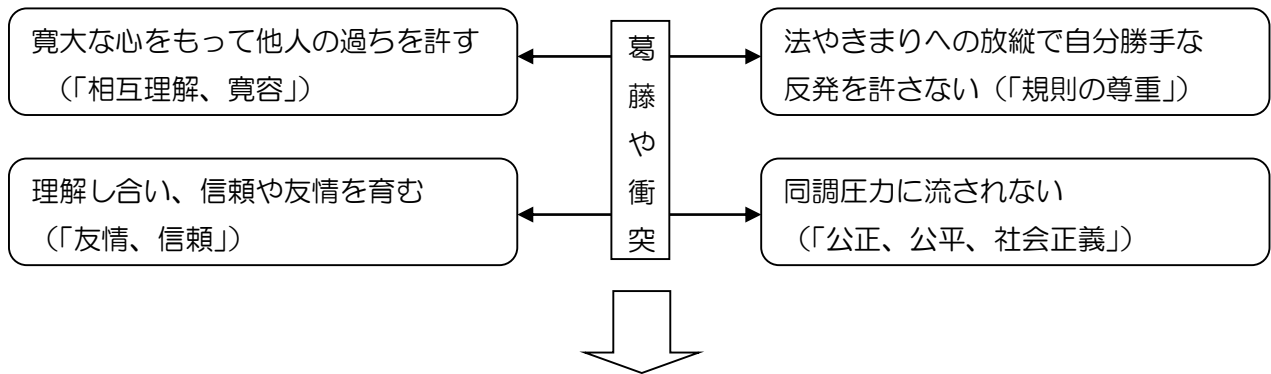
→道徳科の授業の質的転換

質的転換に向けて

道徳的価値に迫る読み物の活用や、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習など、質の高い多様な指導方法を取り入れた授業を各学校において展開する必要があります。



【道徳的価値の葛藤や衝突を活用した学習の展開例】



- 「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考える。
- 他者との合意形成や具体的な解決策を得ること自体が目的ではなく、多面的・多角的な思考を通じて、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める。

2 道徳科の授業の質的転換

(1) 道徳教育の目標と道徳科の目標

道徳教育の「道徳科を要として、学校の教育活動全体で通じて行うもの」という考え方は、今後も大事なこととしておさえられています。道徳教育を通して、児童生徒の道徳性を養うことが大切です。

道徳教育は、新たな趣旨を踏まえて、目標の改善が図られました。道徳性を育成すべき資質・能力の中核として明瞭に示し、道徳科が道徳教育の要としての役割を果たす構造を明確にしました。

道徳教育の目標

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の（人間としての）生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。

道徳科の目標

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

（ ）は中学校

【小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編】

道徳教育と道徳科の目標が「道徳性」という資質・能力でつながれ、一貫的な理解ができるようになりました。学校の教育活動全体で行う道徳教育は、子どもが豊かに生きるうえでの基盤となる道徳性の育成を主眼としています。また、その要となる道徳授業は、どのような学習展開にするべきかを示しています。

- 道徳教育・・・教育活動全体での道徳性育成の全体的指導
- 道徳科・・・授業を通して行う道徳性育成の直接指導

道徳科の学習では、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考えることで、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を行い、道徳性（道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度）を育てます。道徳科の授業は、「道徳性を養う」ための学習活動を具体化したものです。

コラム 🔍 キーワードを読み解く

道徳教育におけるキーワードを学習指導要領に照らし合わせながら読んでいきます。

1. 道徳的諸価値についての理解

「道徳的諸価値」とは、「道徳的価値」が複数集まったものと捉えます。「道徳的価値」については、次のように整理されています。

「道徳的価値」とは…

道徳的価値とは、よりよく生きるために必要とされるものであり、人間としての在り方や生き方の礎となるものである。

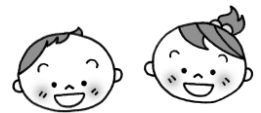
【小】道徳的価値が人間らしさを表すものであることに気付き、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深めていくようにする。

【中】道徳的諸価値が人間としてのよさを表すものであることに気付き、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に根ざした自己理解や他者理解、人間理解、自然理解へとつながっていくようにすることが求められる。

『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』

○**価値理解**…道徳的価値は人間としてよりよく生きる上で大切であると理解すること

- 友達と仲良くすると楽しいなあ。
- 最後まで頑張り、やり遂げたときはきもちがいいなあ。



○**人間理解**…道徳的価値は大切であるが、なかなか実現できない人間の弱さを理解すること

- 困っている人に親切にしたいが、声をかけるのは難しいなあ。
- 公共の場でうっかり迷惑をかけることがあるなあ。



○**他者理解**…道徳的価値の実現に向けて、感じ方、考え方は多様であることを理解すること

- 正しいことをするときもいろいろな考え方があるんだなあ。
- ひとつの物事でも人によって感じ方がちがうんだなあ。



2. 自己を見つめる

【小】自分との関わり、つまりこれまでの自分の経験やそのときの考え方、感じ方と照らし合わせながら、更に考えを深めること

【中】自分との関わりも含めて理解し、それに基づいて内省することが求められる。

『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』

3. 物事を多面的・多角的に考える

一つの物事を多様な側面から、また多様な角度に向かって思考することで考えの磨き合いを生み出すことです。

【小】児童が多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考えることが求められる。

【中】人としての生き方や社会の在り方について、多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話し協働しながら、物事を広い視野から多面的・多角的に考察することが求められる。

『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』

4. 生き方についての考えを深める

道徳的価値についての理解を基に、小学校では、「自己の生き方」について、中学校では「人間としての生き方」について、考えを深める学習を行います。

道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自分自身の体験やそれに伴う考え方や感じ方などを確かに想起したりすることができるようにするなど、特に自己の生き方についての考えを深めることを強く意識して指導することが重要

『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』



自己を見つめることで、自分の成長を実感して、これからの課題や目標を見付けることができます。

児童生徒が自分自身を具体的状況において、より深く見つめることが大切です。

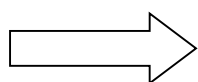


(2) 考え、議論する道徳

「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について」（報告）の中で、児童生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうかを見取る基本的な考え方として、次のような例が示されています。

- 道徳的な問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉えようとしている。
- 自分と違う意見や立場を理解しようとしている。
- 複数の道徳的価値の対立が生じる場合において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。

児童生徒をこのような多面的・多角的な思考に導く学習とするためには、「他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する」活動や「道徳的価値を自分との関わりの中で深めていく」活動を取り入れていく必要があります。



「考える道徳」「議論する道徳」に転換

しかし、こんな疑問や不安をもっている先生はいませんか

「考え、議論する道徳」の授業ってどんな授業をすればいいの？

小学校低学年で議論できるの？



クラスの雰囲気が悪くならない？

今、道徳科で求められている「考え、議論する道徳」を「考える」と「議論する」に分けて表します。

【考えるとは】 児童生徒が主体的に自分との関わりの中で考えること

⇒自分の考え方や感じ方に気付く

【議論するとは】 児童生徒が多様な考え方、感じ方に出会い、交流すること

⇒自分の考え方や感じ方を明確にする

児童生徒に「自分ならどのように行動・実践するか」などを考えさせた後、自分とは異なる意見と向かい合いながら議論させます。意見を戦わせ、相手を言い負かすことが議論するわけではありません。

「考え、議論する道徳」とは、子どもが常に自己の生き方を見つめながら、みんなで多様な視点から話し合い、語り合うことを通して自己のよりよい生き方を考えていく学習です。

(3) 質の高い多様な指導方法

道徳科の質の高い多様な指導方法の特長については、「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について」(報告)において、次のように示されています。

① 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考えることを通し、道徳的諸価値の理解を深めることについて効果的な指導方法であり、登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えることにより、道徳的価値の理解を深めることができる。

② 問題解決的な学習

児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な道徳的諸価値に関わる問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。問題場面について児童生徒自身の考えの根拠を問う発問や、問題場面を実際の自分に当てはめて考えてみることを促す発問、問題場面における道徳的価値の意味を考えさせる発問などによって、道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

③ 道徳的行為に関する体験的な学習

役割演技などの体験的な学習を通して、実際の問題場面を実感を伴って理解することを通して、様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。問題場面を実際に体験してみること、また、それに対して自分ならどのような行動をとるかという問題解決のための役割演技を通して、道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

ここで示された三つの指導方法の特長は、ねらいを実現するための例示に過ぎず、それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではありません。

重要なことは、指導する教員一人一人が、学習指導要領の趣旨を把握し、学校や児童生徒の実態を踏まえて、授業の主題やねらいに応じた適切な指導方法を選択することです。

(4) 内容項目

道徳科で指導する内容項目は、学習指導要領の一部改訂（平成27年3月）において、さまざまな視点で改善が図られ、平成29年3月の小（中）学校学習指導要領にそのまま引き継がれました。主な改善点は、以下の通りです。

- 各学校段階の項目ごとにキーワードを付した。
- 四つの視点の区分の1～4をA～Dと呼び変え、CとDを入れ替えた。
- Dの視点の表現に「生命や」を加え、生命尊重の課題を重視した。
- 項目表現を「…こと」と体言止めし、そのテーマ性を強調した。

また、小学校低学年段階から以下の新たな内容項目が加えられ、充実が図られました。

- 【低学年】「個性の伸長」「公正、公平、社会正義」「国際理解、国際親善」
- 【中学年】「相互理解、寛容」
- 【高学年】「よりよく生きる喜び」

なお、中学校段階では統合や見直しにより項目の数を絞り込んでいます。これらは、全体として、いじめなどの子どもの心の課題へよりの確に対応していくために、内容項目の充実を図ったとされています。全体の一貫性が高まり、内容項目の指導において、発達課題を生かした指導が今まで以上に求められています。

コラム



内容項目と年間指導計画

道徳科の年間時数は35時間です（小学校1年生は34時間）。指導時数と内容項目の数が同数ではないので、それぞれの学年で

「年間35時間」－「内容項目数」＝「学校裁量の時数」

となります。

めざす児童・生徒像の明確化・共有化・重点化をした上で、重点指導、複数時間指導等をどのように取り扱っていくのかを考えます。道徳教育に対する学校の考え方が問われることとなります。

そのために、道徳教育の全体計画（別葉含む）及び年間指導計画の作成と工夫・改善が重要となってくるのです。

小学校キーワード	1・2	3・4	5・6	中学校キーワード	
A 主として自分自身に関すること					
善悪の判断、自律、自由と責任	①	①	①	自主、自律、自由と責任	①
正直、誠実	②	②	②		
節度、節制	③	③	③		
個性の伸長	④	④	④	向上心、個性の伸長	③
希望と勇気、努力と強い意志	⑤	⑤	⑤	希望と勇気、克己と強い意志	④
真理の探究			⑥	真理の探究、創造	⑤
B 主として人との関わりに関すること					
親切、思いやり	⑥	⑥	⑦	思いやり、感謝	⑥
感謝	⑦	⑦	⑧		
礼儀	⑧	⑧	⑨	礼儀	⑦
友情、信頼	⑨	⑨	⑩	友情、信頼	⑧
相互理解、寛容		⑩	⑪	相互理解、寛容	⑨
C 主として集団や社会との関わりに関すること					
規則の尊重	⑩	⑪	⑫	遵法精神、公德心	⑩
公正、公平、社会正義	⑪	⑫	⑬	公正、公平、社会正義	⑪
勤労、公共の精神	⑫	⑬	⑭	社会参画、公共の精神	⑫
				勤労	⑬
家族愛、家庭生活の充実	⑬	⑭	⑮	家族愛、家庭生活の充実	⑭
よりよい学校生活、集団生活の充実	⑭	⑮	⑯	よりよい学校生活、集団生活の充実	⑮
伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度	⑮	⑯	⑰	郷土の伝統と文化の尊重、 郷土を愛する態度	⑯
国際理解、国際親善	⑯	⑰	⑱	我が国の伝統と文化の尊重、 国を愛する態度	⑰
				国際理解、国際貢献	⑱
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること					
生命の尊さ	⑰	⑱	⑲	生命の尊さ	⑲
自然愛護	⑱	⑲	⑳	自然愛護	⑳
感動、畏敬の念	⑲	⑳	㉑	感動、畏敬の念	㉑
よりよく生きる喜び			㉒	よりよく生きる喜び	㉒

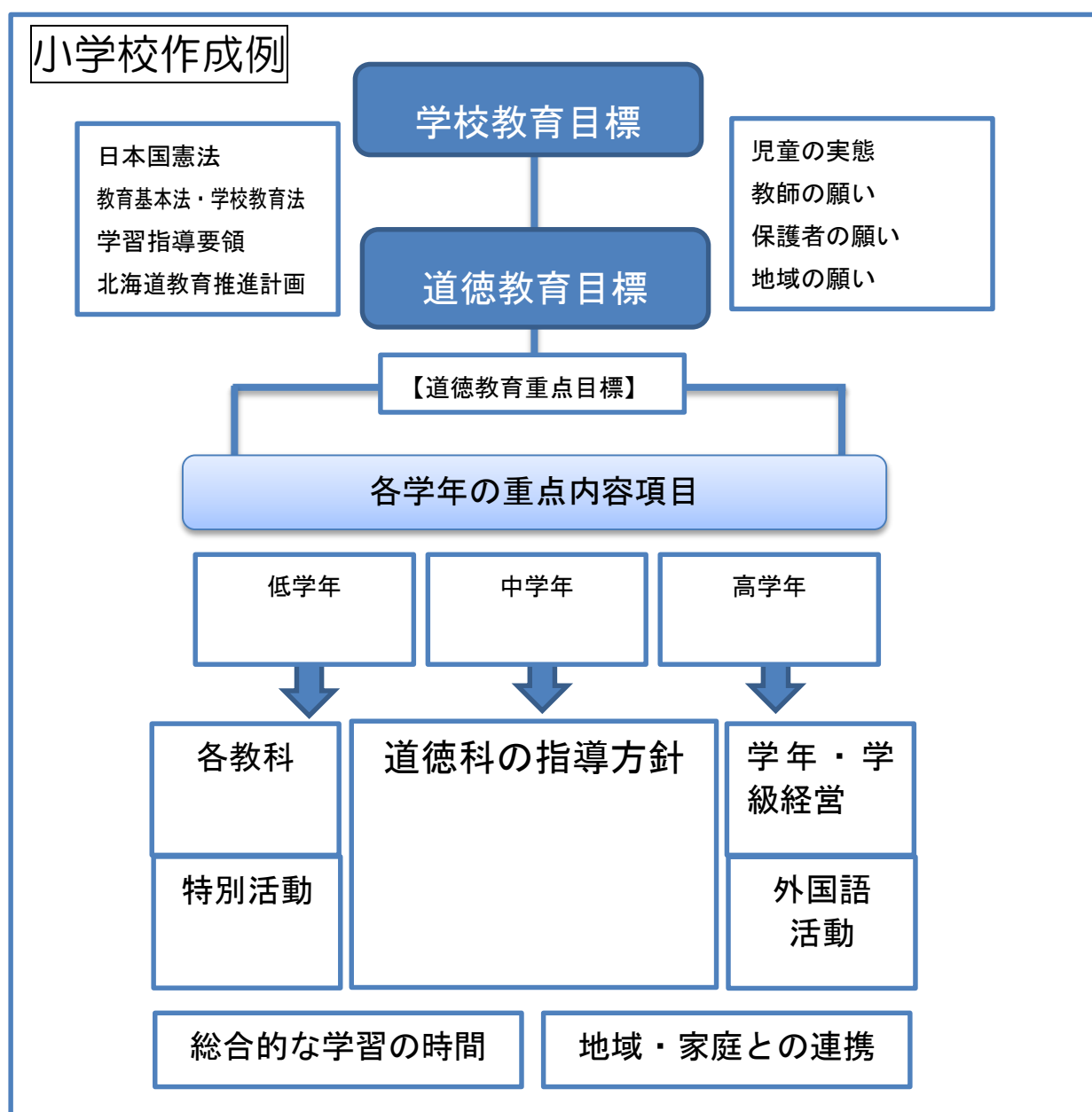
3 道徳教育の推進（教育課程の編成）

各校の児童生徒や地域の実態を踏まえ、道徳教育の重点を明確にした教育課程を編成します。その重点目標を踏まえて「道徳教育の全体計画」「道徳の全体計画（別業）」「道徳科の年間指導計画」を作成します。

道徳教育推進教師が中心となり、すべての教職員の協力の下、これらの環境整備をしていきます。

（１）道徳教育の全体計画

学校教育全体で道徳教育を推進していくという視点から、各教科などとの関わりや学年・学級経営、家庭や地域との関わりなどを確認します。



(2) 道徳科の年間指導計画

道徳教育の全体計画を受けて、道徳科の年間指導計画を作成します。

年間を見通した主題配列表をもとに、1 単位時間ごとの主題やねらい、展開の大要などをまとめて作成します。

年間主題配列表例

第4 学年道徳科 月別主題配列表

回	月	週	内容項目	主題名	教材名
1	4	1	A 個性の伸長	一人一人のよいところ	1. 世界に一つだけの花
2		2	B 友情、信頼	大切な友だちだから	2. 絵はがきと切手
3		3	A 正直、誠実	正直な心で	3. 「正直」五十円分

年間指導計画例

月	主題・内容項目 教材名	ねらい	めあて(★)・学習活動	「大きくりな評価」のために	現代的な課題と 他教科・領域との関わり
4月	【一人一人のよいところ】 A 個性の伸長 1 世界に一つだけの花	「世界に一つだけの花」を読み、互いのよいところを見つけ合う活動を通して、個性について考えさせ、自分の長所を伸ばしていこうとする心情を育てる。	★自分のよいところを発見しましょう。 ①自分のよいところは、どんなところかを考える。 ②「世界に一つだけの花」を読み、「一人一人違う種を持つ」とはどういうことだと思うか話し合う。 ③「種」にはどんなものがあるか考え、意見を出す。 ④クラスの友達の「一人一人違う種」を見つけてみる。 ⑤友達と交流して、気づいた、自分の持っている「種」について考える。 ⑥「つなげよう」を読み、自分の「種」について記入する。	【道徳的価値の理解を基に自己を見つめる】 お互いの持っている「よさの種」を見つけ、伝え合うことによって、自分にも、友達にも個性を見つけている。 【道徳的価値の理解を基に自分の生き方について考える】 自分にある「よさの種」に気づくことで、これからの自分を考えている。	キャリア教育 音楽科 特別活動（友達のいいところさがし）
4月	【大切な友だちだから】 B 友情、信頼 2 絵はがきと切手	料金不足のはがきを送ってきた友人に対し、そのことを伝えるかどうかわびむひろ子の姿を通して、友情や信頼について考えさせ、友情を理解し、信頼し合う実践意欲と態度を育てる。	★友達を大切にすることは、ということなのでしよう。 ①友達の間違いに気づいたとき、どうしているかを発表する。 ②「絵はがきと切手」を読み、母と兄から意見を聞いたひろ子が迷っているのは、どんな気持ちからか、話し合う。 ③ひろ子が、なぜ「やっぱり知らせよう。」と思ったのか、話し合う。 ④絵はがきが料金不足だったことを、ひろ子は手紙でどのように伝えたいか考え、ひろ子になったつもりで書いてみる。 ⑤「つなげよう」を読み、本当の意味で、友達のことを考える、友達のことを大切にすることというのはどういふことかを考える。 ⑥P30「学びの記録」に記入する。	【道徳的価値の理解を基に自己を見つめる】 友達の信頼し切れず、相手の誤りや間違いを伝えられなかったことがなかったか振り返っている。 【道徳的価値の理解を基に自分の生き方について考える】 友達と、お互い信じ合い、考えを言い合える関係を築こうとしている。	国語科
4月	【正直な心で】 A 正直、誠実 3 「正直」五十円分	おつりを多くもらったけれど、正直におつりを返しに行く姿を通して、正直さや誠実さについて考えさせ、普段の生活でも正直に明るく・・・	★自分から正直に行動するために、大切なことは何でしょう。 ①自分の行動を振り返り、正直にできなかったことがないかを考える。 ②おばちゃんから足りないおつりをもらったとき、二人がどんな気持ちだったかを考える。 ③たけしは、どんなことを考えて50円を返しに行ったか、考える。 ④二人は、どんなことを話しながら夕焼けの道を帰っていったか、二人組で役扮演技し、発表し合う。・・・	【道徳的価値の理解を基に自己を見つめる】 これまでの自分を振り返って、正直にできなかったことはないか見つめている。 【道徳的価値の理解を基に自分の生き方について考える】 ありのままの自分を否定せずに見つめ直し、正直に明るい心で生きていくことの大切さについて考えている。	消費者教育 図書館活用

参考：光村図書出版HP (http://www.mitsumura-tosho.co.jp/tokubetsu_dotoku/download/#nenkei)

(3) 道徳教育の全体計画（別葉）

道徳教育の全体計画を効果的に機能させるようにするために、「道徳教育の全体計画（別葉）」を作成し、他の教育活動との関連を考慮して意図的に配列していきます。

この別葉により、道徳科が各教育活動における道徳教育の要として目標を達成するために、補ったり（補充）、深めたり（深化）、相互の関連を考えて発展させたり統合させたり（統合）する役割を明確にします。

作成例

		4月	5月	6月
道徳		1 世界に1つだけの花 2 絵はがきと切手 3 「正直」五十円分	4 生きているしるし 5 言わなきゃ 6 みんな、待ってるよ	7 目覚まし時計 8 琵琶湖のごみ拾い 9 本当の思いやり
主な学校行事		着任式 始業式 入学式 交通安全教室	家庭訪問 遠足 避難訓練 集団下校	運動会 人権教室
特別活動	学級活動(1)	【学級活動(1)イ】係決め C よりよい学校生活、 集団生活の充実	【学級活動(1)ア】学級文庫を作る A 節度、節制	【学級活動(1)ア】雨の日の過ごし方 A 節度、節制
	学級活動(2)	【学級活動(2)ウ】楽しいグループ活動 B 親切、思いやり	【学級活動(2)ウ】丁寧な話し方 B 礼儀	【学級活動(2)カ】学校での怪我 A 節度、節制
	クラブ 児童会 委員会	【児童会活動】1年生を迎える会 C よりよい学校生活、 集団生活の充実	【クラブ活動】クラブ開始 A 個性の伸長	
国語		ばらばら言葉を聞き取ろう 春のうた D自然愛護/D感動、畏敬の念 白いぼうし D自然愛護/D感動、畏敬の念 漢字の組み立て 漢字辞典の使い方 C規則の尊重/C伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度 春の風景 C伝統と文化の尊重、国や郷土を 愛する態度/D自然愛護 よりよい話し合いをしよう B親切、思いやり/B礼儀/ B相互理解、寛容	【コラム】話す言葉は同じでも B親切、思いやり 大きな力を出す 動いて、考えて、また動く A希望と勇気、努力と強い意志 漢字の広場1 短歌・俳句に親しもう(一) C伝統と文化の尊重、国や郷土を 愛する態度/D自然愛護/D感 動、畏敬の念 新聞を作ろう A節度、節制/B礼儀	【コラム】アンケート調査のしかた B親切、思いやり 【コラム】新聞に載せる 写真や 図などを選ぶときには いろいろな意味をもつ言葉 ふるやのもり C伝統と文化の尊重、国や郷 土を愛する態度 一つの花 C家族愛、家庭生活の充実/ D生命の尊さ
書写		書写で学習したことは、どんな場面で 生かせるかな学習の進め方 書くときのしせい/筆の持ち方 点画の種類	筆順と字形1 筆順と字形2	筆順と画の付き方1 筆順と画の付き方2
社会		1. 事故・事件のないまちをみざして A節度、節制/B親切、思いやり /B感謝/B礼儀/B相互理解、 寛容/C規則の尊重/C勤労、公 共の精神/Cよりよい学校生活、 集団生活の充実/D生命の尊さ	2. 災害からまちを守るために A節度、節制/B感謝/B相互 理解、寛容/C規則の尊重/ C勤労、公共の精神/Cよりよい 学校生活、集団生活の充実/ D生命の尊さ ○学校の消防せつびの調べ方/ ○まとめる A希望と勇気、努力と強い意志	〈深める〉地域の安全のこれからを 考えよう A節度、節制/A希望と勇気、 努力と強い意志/B礼儀/B相互 理解、寛容/D生命の尊さ 〈もっと知りたい〉災害にそなえた 大田区の公園づくり A希望と勇気、努力と強い意志/ C勤労、公共の精神/D生命の尊 さ 1. ごみはどこへ A節度、節制/B親切、思いやり /B感謝/B相互理解、寛容/ C規則の尊重/C公正、公平、 社会正義/C勤労、公共の精神/ D自然愛護
算数		グラフや表を使って調べよう C国際理解、国際親善 角の大きさの表し方を考えよう A希望と勇気、努力と強い意志	角の大きさの表し方を考えよう A希望と勇気、努力と強い意志 わり算のしかたを考えよう C規則の尊重/C国際理解、国際 親善/D自然愛護	わり算のしかたを考えよう C規則の尊重/C国際理解、国際 親善/D自然愛護 四角形を調べよう A希望と勇気、努力と強い意志

参考：光村図書出版HP (http://www.mitsumura-tosho.co.jp/tokubetsu_dotoku/download/#betsuyo)

(4) 各学級の指導計画

また、年間指導計画に応じて、それぞれの学級で児童生徒の実態に応じた指導計画にするために、学級ごとの計画を作成することも考えられます。

作成例

〇〇小学校 学級における道徳教育の指導計画(高学年)

〇年〇組 担任 〇〇〇〇



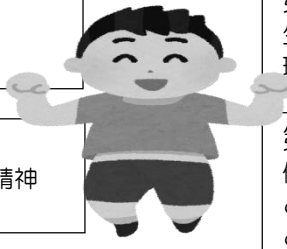
4 道徳科の授業づくり

(1) 道徳科の授業

① 道徳教育の目標に基づいて行う

道徳教育が目指すものは、教育基本法第1条、第2条第1項から第5項に示された姿です。したがって、道徳科でも、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことが目標となります。

「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成」(第1条)

第1項 知識と教養、真理を求める態度 豊かな情操と道徳心、健やかな身体		第4項 生命を尊び、自然を大切に する態度 環境の保全
第2項 個人の価値の尊重、自主及び 自律の精神 職業及び生活との関連、勤労		第5項 伝統と文化の尊重、我が国と郷土を愛する とともに、他国を尊重し、国際社会の平和 と発展に寄与する態度
第3項 正義と責任、男女の平等、自 他の敬愛と協力 公共の精神、主体的に社会の形成に参画し、 その発展に寄与する態度		

② 授業づくりにあたって

確認しておくこと

- ① 学校の重点内容項目、授業の内容項目、学習指導要領解説
- ② 内容項目に対する指導者の明確な考え(価値観)
- ③ 内容項目に対する児童生徒の現状把握(児童生徒観)
- ④ 価値観、児童生徒観に基づく教材活用(教材観)

明確な指導観(価値観・児童生徒観・教材観)をもつことで、授業のねらいも明確になり、道徳的価値の理解に結び付く授業となります。

教材の分析

- ① 育てたい道徳性(道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度)
- ② 内容項目に対して考えさせる中心的な場面
- ③ 中心的な発問と他に必要な発問(基本発問・補助発問)
- ④ 効果的な指導方法(多様な指導方法)



育てたい力、考えさせる場面によって発問は変わります。自己を見つめるための発問も必要に応じて考えます。

(2) 学習指導案

道徳科の学習指導案は、年間指導計画に基づいた内容項目を指導するために、思考を整理したり重点としたい学習活動を明確にしたりすることを目的として作成します。

ねらいを達成するために、道徳科の特質を生かして、何をどのような順序・方法で指導し、評価し、さらに本時以外の活動にどのように生かすのかなど、学習指導の構想を表現していきます。児童生徒や学年・学級の実態を踏まえ、作成することが大切です。

- | | |
|--|---|
| 1 主題名・内容項目 | 年間指導計画に基づいた主題名、内容項目を記述します。 |
| 2 ねらいと教材 | |
| 3 教材について
(1) ねらいとする道徳的価値
(2) 児童生徒の実態
(3) 教材について | 主題や内容項目と照らし合わせながら、本時のねらいを明確にします。 |
| 4 学習指導過程 | ねらいとする価値を具体的におさえ、明確な指導観をもちます。 |
| 5 評価 | 教師の指導や発問、児童生徒の思考や活動を記述します。指導上の留意点や支援の在り方についても記述します。 |
| 6 その他 | 内容項目に即して期待する児童生徒の姿を記述します。 |

板書計画、他教科の関連、家庭や地域との連携、外部講師の活用などについて、学習の特質に応じて記述します。

(3) 基本的な指導過程

道徳科の指導過程には、特に決められた形式はありませんが、一般的には、他教科の学習と同様に「導入⇒展開⇒終末」という3段階を設定することが広く行われています。

導入

道徳的価値への方向付け

- 本時のねらいとする道徳的価値について意識を向けさせます。
- 主題に関する道徳的問題を取り上げ、興味や関心を高めさせます。
- 具体的な経験や事例からねらいに迫ります。
(学習に向かう雰囲気をつくります。)
- 絵や実物を提示することで学習への動機付けをします。

展開

教材を用いて、ねらいとする「道徳的価値」について迫る

- 道徳的価値の大切さについて考えさせるため、登場人物の生き方について自分自身と比較しながら考えさせます。
- 多様な考え方、感じ方に出会う。
- 解決すべき課題を見付けさせます。
- 解決策を構想させます。
 - ・どうすべきか・自分ならどうするか・人としてどうすべきか

資料から離れて、ねらいとする「道徳的価値」を自分との関わりの中で改めて捉え直す段階

- 今までの自分の生活、生き方、在り方を振り返らせます。
- これからどのように生きていきたいかを考えさせます。(未来の姿を見つめる。)
- 自己肯定感の高揚

終末

「道徳的価値」に対する考えや思いをまとめたり、今後につなげていこうとする意欲をもったりする段階

- 道徳的価値を確かめ、整理し、まとめをする。
- 今後の生活のどの場面で活かすのかを考えさせる。
- 道徳的実践意欲の向上
- 決意表明、行為の強制にならないようにする。

(4) 主な発問例

発問の工夫について学習指導要領には、次のように示されています。

教師による発問は、児童が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に考えたりするための思考や話し合いを深める上で重要である。発問によって児童の問題意識や疑問などが生み出され、多様な感じ方や考え方が引き出される。そのためにも、考える必然性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問、物事を多面的・多角的に考えたりする発問などを心掛けることが大切である。

つまり、発問を工夫していくことがこれから道徳科の授業を進めていくのに大切となります。また、発問を考える順序としては、まず、中心的な発問を考え、それから前後の発問（基本発問、補助発問）を考えていきます。どの発問もねらいにせまるためであり、発問によっては、ねらいとする内容項目と異なってしまうことがあるので、注意しましょう。ここでは、各学習過程における発問例をいくつか紹介します。



コラム 発問の種類

①基本発問

中心発問の前後で行い、中心発問をより深めるために行います。

- ・事実確認を問う発問
- ・ねらいとする価値に関わる発問
- ・主人公の生き方、感じ方や考え方を問う発問
- ・最後のまとめの段階での発問

②中心発問

ねらいを達成するために特に重要な発問です。児童生徒から多様な考えを引き出すための発問が「中心発問」です。ねらいとする道徳的諸価値や物事を自分との関わりで考え、友達の考えと比較・検討することによって、自己を見つめ自己の生き方について深く考えるようになります。教材の中では、主人公の人間としてのよさや、新たな生き方や考え方に気づき、行動に移す場面などに「中心発問」が用いられます。

③補助発問

多様な感じ方や考え方を十分に引き出せない場合、物事を多面的・多角的に考えさせたい場合、思考を深めたい場合に「揺さぶり発問」「批判的な発問」等の補助

発 問 例	
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ● ○○とはどういうことだろう。 ● ○○とは、何だろう（知っていますか）。 ● ○○した経験はありますか。 ● ここでは何と何が問題になっているでしょう。（問題解決学習） ● みんなで話したいことは何ですか。 ● この話で心に残った場面はどこですか。
展 開 （ 前 半 ）	<ul style="list-style-type: none"> ● ○○は、なぜそんなことをしてしまったのでしょうか。 ● その時、○○はどんな気持ちだったでしょう。 ● ○○の生き方を支えているものはなんですか ● ○○が大切にしているものは何ですか。 ● ○○の考えが変わったのはなぜでしょうか。 ● 自分ならどのようにしますか。 ● 主人公と自分とは、どんなところが違いますか。また、どんなところが似ていますか。 ● 本当の○○とはどんなものですか。 <p style="margin-left: 2em;">（補助発問）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● どうしてそのように思うのですか。 ● ○○君の考えに対してみんなはどう思いますか。 ● ○○と逆の立場で考えたらどうですか。
展 開 （ 後 半 ）	<ul style="list-style-type: none"> ● この話から自分が学べたこと、深く考えたのはどんなことだろう。 ● 同じような経験をしたときどのように思いますか。 ● 登場人物にどんな声をかけてあげますか。 ● あなたの生活に生かせそうなことは何ですか。
終 末	<ul style="list-style-type: none"> ● 話合いの中で、自分の考えが変わったところはないですか。 ● 一番大切だと思ったことは何ですか。

5 道徳科の評価

小（中）学校学習指導要領（平成 29 年 3 月）第 1 章総則では、「第 3 教育課程の実施と学習評価」に「2 学習評価の充実」の項目を起こして、「学習評価の実施に当たっては、次の事項に配慮する」として 2 点が示されました。

- (1) 児童（生徒）のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。
- (2) 創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、学年や学校段階を越えて児童（生徒）の学習の成果が円滑に接続されるように工夫すること。

これを受けて、道徳教育における評価も生かしていかなければなりません。小（中）学校学習指導要領解説『特別の教科 道徳編』においては、道徳科の評価に関する基本的な態度について、次のように示されています。

○改訂後の学習指導要領（特別の教科 道徳）

児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

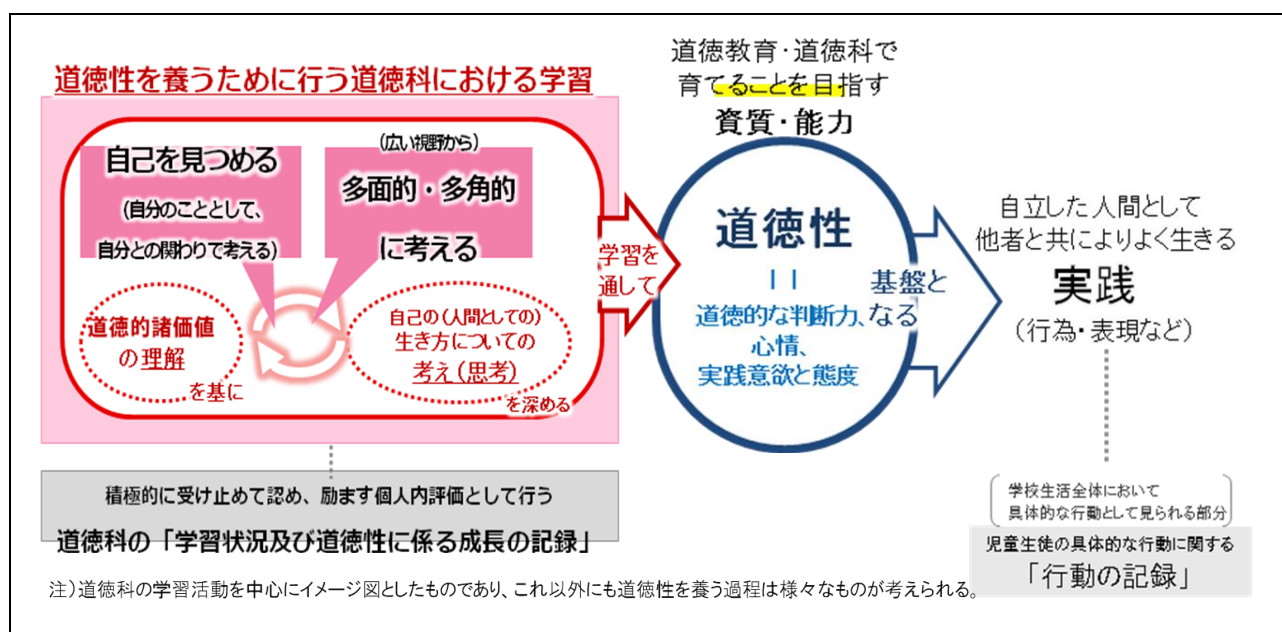
具体的な方法を、道徳科の評価の在り方に関する専門家会議で検討（H27.6～H28.7）

基本的な方向性

- 数値による評価ではなく、記述式とする。
- 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とする。
- 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかにか成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行う。
- 学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視する。
- 調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする。

(1) 道徳科の学習活動と評価のイメージ

- 道徳性が養われたか否かは容易に判断することができるものではなく、観点別に分析的に評価（ABCの段階をつける）ことは妥当ではない。
- 道徳科の授業では、特定の価値観を児童生徒に押しつけたり、指示通りに主体性を持たずに言われるままに行動するよう指導したりするものであってはならない。内容項目を手掛かりに「考え、議論する」ことを通じて、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える学習を行うことによって、道徳性を養うことを目指すもの。
- このため、道徳科の学習の中で、特に「自己を見つめ、自分のこととして考えているか」「物事を多面的・多角的に考えようとしているか」といったことに着目することで、道徳科の学習状況を把握することが必要である



(2) 個人内評価と記述の基本的な考え方

道徳科において、児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子をどのように見取り、記述するかということについては、学校の実態や児童（生徒）の実態に応じて、教師の明確な意図の下、学習指導過程や指導方法の工夫と併せて適切に考える必要があります。

「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させている」ことに関する視点の例

- ・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしていることに着目する。
- ・自分と違う立場や考え方、感じ方を理解しようとしていることに着目する。

- ・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしていることに着目する。

「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めている」ことに関する視点の例

- ・教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしていることに着目する。
- ・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目したりする。
- ・道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解をさらに深めていることに着目する。
- ・道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている事に着目する。



○発言が多くない生徒や考えたことを文章に記述することが苦手な児童（生徒）が、教師や他の児童（生徒）の発言に聞き入ったり、考えを深めようとしていたりしている姿に着目するなど、発言や記述ではない形で表出する生徒の姿に着目するということも重要です。

○年間や学期を通じて、当初は感想文や質問紙に、感想をそのまま書いただけであった児童（生徒）が、学習を重ねていく中で、読み物教材の登場人物に共感したり、自分なりに考えを深めた内容を書くようになってきたりすることや、既習の内容と関連づけて考えている場面に着目するなど、一単位時間の授業だけでなく、児童（生徒）が一定の期間を経て、多面的・多角的な見方へと発展していたり、道徳的価値の理解が深まったりしていることを見取るという視点もあります。



※ここに挙げた視点はいずれについても例示であり、指導する教師一人一人が、質の高い多様な指導方法へと指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにするという道徳科の評価の趣旨を理解したうえで、学校の状況や児童（生徒）一人一人の状況を踏まえた評価を工夫することが求められます。

(3) 道徳科の評価の工夫に関する例 (専門家会議における意見より)

「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について(報告)〔別紙2〕
(平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議)

- 児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイル等に集積して学習状況を把握すること
- 記録したファイル等を活用して、児童生徒や保護者等に対し、その成長の過程や到達点、今後の課題等を記して伝えること
- 授業時間に発話される記録や記述などを、児童生徒が道徳性を発達させていく過程での児童生徒自身のエピソード(挿話)として集積し、評価に活用すること
- 作文やレポート、スピーチやプレゼンテーション、協働での問題解決といった実演の過程を通じて学習状況や成長の様子を把握すること
※成果物そのものに優劣を付けて評価するわけではないことに注意
- 1回1回の授業の中で全ての児童生徒について評価を意識してよい変容を見取ろうとすることは困難であるため、年間35単位時間の授業という長い期間の中でそれぞれの児童生徒の変容を見取することを心掛けるようにすること
- 児童生徒が1年間書きためた感想文等を見ることを通して、考えの深まりや他人の意見を取り込むことなどにより、内面が変わってきていることを見取ること
- 教員同士で互いに授業を交換して見合うなど、チームとして取り組むことにより、児童生徒の理解が深まり、変容を確実に確かむことができるようになること
- 評価の質を高めるために、評価の視点や方法、評価のために集める資料などについてあらかじめ学年内、学校内で共通認識をもっておくこと



1 単位時間の道徳科の授業を通して、ねらいに基づく適正な評価を地道に行うとともに、ポートフォリオ評価やパフォーマンス評価、エピソード評価など、多様な評価方法を活用して評価資料を蓄積し、大くくりなまとまりをふまえた評価を行っていきます。



Q 目標に「道徳的諸価値についての理解に基づき」とあるのだから道徳的価値をどれだけ理解できたかを評価すべきではないのでしょうか？

道徳的価値について理解するということは、観念的に、知識として理解なく、自分の事として、自分なりの考え方として理解するものです。他の教科等における「知識及び技能」のように、客観的な知識として身につけることを目的としているわけではありません。

このため、道徳科の目標では、「道徳的諸価値について理解する」とはせず、「道徳的諸価値についての理解に基づき…自己の（人間としての）生き方についての考えを深める…」としています。

（参考）学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第5章第2節

Q 個々の内容項目ごとでなく、「大きくりなまとまり」を踏まえた評価とは、どういうことでしょうか？

道徳科の評価に関しては、

- （他教科等における「知識」のように）一つ一つの内容をどのくらい理解したかという基準で評価するのではなく、個人の成長に着目することが必要であること（自分自身の生き方との関係で理解するものであり、客観的・観念的に理解するものではないため）
- 道徳性に係る成長は毎時間毎時間の授業の中で見取ることができるとは限らないこと

こういったことから、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する必要があると考えられます。

（参考）学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第5章第2節

Q 道徳性の諸様相（道徳的判断力、心情、実践意欲と態度）を評価の観点とすることはなぜ適当でないのですか？

「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度」はそれぞれ独立したものではなく、相互に関係し合っており、切り分けられないものであることから、これらを資質・能力の3つの柱にそれぞれ分けて位置づけることはできないものと考えられます。

また、児童生徒の人格そのものに働きかける道徳科の評価としては、観点別に行う評価（ABCの段階を付ける）自体が妥当ではないと考えられます。

（参考）学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第2章第2節、第5章第2節

Q 道徳科の授業ではない、普段の学校生活で見られる姿を基に評価を行ってはいけないのか？

普段の学校生活で見られる行動については、これまで通り、指導要録の上では、「行動の記録」として記載する要素になります。

道徳科における評価は、道徳科の授業を行った結果として見られた学習状況や道徳性に係る成長の様子を見るものであるため、授業の中で見られた発言や記述などを基に評価を行うこととなります。